

大学院総合福祉研究科研究紀要編集委員会

作成 平成 10 年 7 月  
改定 平成 17 年 4 月 1 日  
改定 平成 24 年 4 月 1 日  
改定 平成 25 年 4 月 1 日  
改定 平成 28 年 10 月 1 日  
改定 令和 2 年 11 月 1 日  
改定 令和 3 年 12 月 1 日  
改定 令和 4 年 11 月 1 日  
改定 令和 7 年 2 月 20 日

- (1) 投稿原稿は文書作成ソフトを利用して次のように作成する。  
①A4判の用紙に横書きで40字×30行、17枚以内(図表等を含む)とし、原稿には通し番号をつける。  
(別紙「紀要様式について」参照)  
②本文の文字サイズは10.5ポイントとする。  
③これとは別に和文抄録(400字以内)、英文抄録(200語以内)、  
キーワード3～5語(日本語・英語)を添付する。(別紙「紀要様式について」参照)
- (2) 図・表、等は別紙として次のように作成する。  
①図・表の番号は、図1、表1のように示し、図と表のそれぞれに通し番号をつけ、表にはタイトルを上、図にはタイトルを下につける。  
②図・表を他の著作物から引用する場合には、出典を必ず明記し、必要に応じて、原著者または著作権保持者から使用許可を得ること。(3)注は、通し番号をつけ、本文中にそれに対応する番号を該当箇所の右肩に<sup>1) 2) 3)</sup>のように表す。
- (3) 注は、通し番号をつけ、本文中にそれに対応する番号を該当箇所の右肩に(1) (2) (3)のように表す。
- (4) 論文の最後には、引用文献の一覧をつけること。  
引用する論文・著書それぞれについて、以下の項目は必ず記載すること。

(削除)

1. 和文書籍

著者名. (発行年). 書名. 出版社. 例: 鈴木 太郎. (2020). 福祉社会の未来. 淑徳出版.

2. 和文論文 (ジャーナル記事)

著者名. (発行年). 論文タイトル. 雑誌名, 巻(号), 掲載ページ. DOI (ある場合) 例: 田中 花子.  
(2019). 多専門職連携に関する実証研究. 社会福祉学研究, 12(3), 45-58. <https://doi.org/xxxx>

3. 和文論文 (書籍の一章)

著者名. (発行年). 章タイトル. 編集者名 (編), 書籍名 (pp. 掲載ページ). 出版社. 例: 山田 一郎. (2021).  
地域包括ケアの実践. 佐藤 健 (編), 現代福祉の展望 (pp. 100-120). 淑徳出版.

4. 英文書籍

Author, A. A. (Year). Title of the book. Publisher. 例: Smith, J. (2018). Social welfare and community care.  
Oxford University Press.

5. 英文論文 (ジャーナル記事)

Author, A. A. (Year). Title of the article. Journal Name, Volume(Issue), Page range. DOI 例: Brown, M. & Green,  
L. (2021). Interdisciplinary collaboration in health care. Journal of Social Work, 35(4), 220-235.  
<https://doi.org/xxxx>

6. 英文論文 (書籍の一章)

Author, A. A. (Year). Title of chapter. In B. B. Editor (Ed.), Title of the book (pp. pages). Publisher.  
例: Jones, P. (2017). The role of psychology in social work. In R. Thomas (Ed.), Advances in  
interdisciplinary studies (pp. 50-65). Routledge.

7. インターネット資料

著者名 (または団体名). (発行年). 資料タイトル. URL 例: 厚生労働省. (2022). 福祉政策の現状と展望.  
<https://www.mhlw.go.jp/xxxx>

例 (英語サイト): World Health Organization. (2020). Global health and social care. <https://www.who.int/xxxx>

- (5) 利用したデータや事例等について、研究倫理上必要な手続きを経ていることを本文または注に明記すること。また、記述においてプライバシー侵害がなされないように細心の注意をなすこと。
- (6) 大学院在籍者及び修了者は、共同執筆者として指導教員の名前も挙げること。  
もしくは指導教員（修了者の場合は、専門領域の近い本学の専任教員も可とする）から投稿の承認を得て、執筆に際しては必ずその教員の指導を受けていること。

以上